



鶴崎紀子さん

市民座談会

女性もいきいき働く社会に向けて

仕事と家庭の両立、転職や再就職など、女性が働くうえで直面する課題について、4人の市民の方にお集まりいただき、それぞれのお立場から意見をかわわしていただきました。



比嘉美佳さん

◆これまでの職歴についてお聞かせください

鶴崎 美術の専門学校で講師をしています。少子化の影響などで授業数が減り、今は図書館の仕事もしています。もともとはグラフィックデザイナーをしていました。ちょうどバブル期で仕事の忙しさから健康を害すると思い、宝石関係の会社に就職したのですが、結婚を機に退職、子育て中に色彩学の資格を取り、現在の仕事に至っています。

比嘉 2歳と3歳の子もがいて、今は子育てに専念しています。パートやアルバイトの経験はありますが、すぐに子どもができたため、働く機会が持てませんでした。

塩野 中学校で家庭科の教師をしていたのですが、結婚を機に退職しました。その後、夫の海外赴任に伴い20年以上中南米で暮らしていました。今年帰国したばかりなのですが、働きたいと思い、今は資格試験を受けるなどそのための準備をしています。

生野 外資系の会社に就職したのですが、私も結婚を機に退職しました。その後、派遣社員の経験を経て、今は医療系の会社で働いています。

女性の部下の成果を自分の手柄にするようなこともありました。また、医療分野は細かいところに目のいく女性には力が発揮しやすい職場だと思います。女性の割合も多いのですが、反面、ミスが許されず、完璧にやろうとするあまりつぶれてしまう人もいました。

◆ライフスタイルに応じた働き方

塩野 私は自分なりの人生設計があって、最初の25年は自分のための、次の25年は家族のため、さらに次の25年は社会のために生きようと考えていました。そういう意味では海外赴任中は子育てに専念できたので満足しています。子どもも大学生になり、これからは地域の役に立つ仕事や社会貢献をしたいと思っています。

鶴崎 それぞれのライフスタイルによって柔軟な働き方ができると思います。図書館の仕事はいわばシフト制のパートなので慣れてきたら正規に働きたいと考えています。図書館の仕事は、両立しやすいから考えると、迷うところ

塩野敦子さん



◆結婚や子育てで変わる女性の働き方

鶴崎 結婚を機に宝石会社を辞めたのは、実は社内結婚だったからです。私自身、働き続けたかったのですが、結婚したら女性の方が辞めるべきという慣習があったからです。女性の社会進出が進んでいるとはいえ、結婚や子育てなどで続けられない方もまだまだ多いのではないのでしょうか。

比嘉 私のまわりにも、子育てのために働いていないママたちが多くいますね。

塩野 私の場合、採用地の関係で辞めざるを得なかったのですが、当時は結婚退職も珍しくなかった時代でしたので抵抗はありませんでした。それに数年で帰国できると思っていたので、そのときは教師の経験を活かして仕事に就けると思っていたのです。



生野 私の場合も社内結婚で、営業職に就いてはあります。

生野 今は営業職に比べると負担の少ない部署で働いているのですが、やはり家庭との両立を考えると、責任の重い部署で働くのがためらわれます。

比嘉 子育てとの両立やタイミングを考えると、なかなか一歩が踏み出せませんね。働くには保育園の問題もあるし、働いていないと保育園には入り難いので、働きたいのに働けないのが実状です。

塩野 中南米の例でいえば、女性が働く上で子育てが仕事のハンディになることはないですね。家事や子育ても男女で分担するのが当たり前ですし、また様々な階級にわたりメイド制が確立されているので、メイドをしている人がメイドを雇って働きに出ることもできるのです。女性が働きやすい環境が整っているので、女性の社会進出も進んでいるんですね。

比嘉 今はまだ一歩を踏み出せずにいますが、学生時代に学んでいたダンスの経験を活かした仕事がしたいと思っています。

◆女性がいきいき働くための課題

生野 男性管理職の意識を変えてほしいと思います。

5年目だったのですが、仕事はかなりきついこともあり、退職しました。

塩野 やはり20数年のブランクは大きいと思います。そのときは迷いはなくても、あまりにも遠ざかってしまうとハードルが高くなりですね。この年齢で働くことの難しさを感じていますが、10年後の自分からみるとまだまだできることはあると思うので、あきらめずにチャレンジしていこうと考えています。

鶴崎 やはり資格は大事ですね。図書館の仕事は、司書講習を受けたのがきっかけで採用につながりました。

生野 キャリアの継続は大事だと思います。派遣を経て就職につながったのも、医療分野で働いていた経験があったからだだと思います。

◆まだまだ職場は男性優位？

鶴崎 グラフィックデザイナーの仕事をしていたときは女だから、男だからという感覚を持つことなく働けたのですが、宝石業界は古い体質でしたので、配属や昇進などで男女差がありましたね。外資系の場合、どうでしたか？

生野 給料など待遇は男性と同じですが、そのぶん競争が激しく大変でした。男性の上司が

ます。中には、女性は感情的だからと議論をさけたり、正當に評価してくれなかったりする上司も少なくありません。女性だから男性だからではなく、個人の能力で働ける職場環境が必要だと思います。

比嘉 保育園の整備、職場の制度など、やはり子どもがいても働ける環境だと思います。

塩野 社会の制度や職場の環境だけでなく、学校や家庭での教育も大事だと思います。家事や子育ては女性の役目という意識が社会にある限り、いきいきと働くことはできないと思います。

鶴崎 同感ですね。我が家では夫や子どもたちも家事を分担しています。家族の協力があつたからこそ、働いてこれたと思います。

生野 男性の給料も下がってしまうかもしれない時代です。これからは男女で仕事も家庭も支えあうという意識が必要だと思います。

塩野 長時間労働も問題だと思います。中南米の人たちは家族の幸せのために働いているという意識なのですが、日本の場合は、会社のために働いているような状況に思えます。仕事も家事もシェアしあうことが、男女双方の幸せにつながると思います。

生野晶子さん



特集 女性と仕事

～その現状とこれからを考える